Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-10

Physical frailty correlates with behavioral and psychological symptoms of dementia and caregiver burden in Alzheimer's disease.

Sugimoto, Taiki

(Degree)
博士（保健学）

(Date of Degree)
2019-03-25

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲第7494号

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007494

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（様式３）

論文内容の要旨

専攻領域　地域保健学
専攻分野　地域保健学
氏　　名　杉本大貴

論文題目（外国語の場合は，その和訳を（　）を付して併記すること。）
Physical frailty correlates with behavioral and psychological symptoms of dementia and caregiver burden in Alzheimer's disease.
(アルツハイマー型認知症において身体フレイルは行動心理症状及び介護負担と関連する)

論文内容の要旨（1,000字～2,000字でまとめること。）

目的：認知症とフレイルは，高齢者に多い病態である。本研究の目的は，アルツハイマー型認知症におけるフレイルと行動・心理症状及び介護負担との関連性を明らかにすることである。

方法：解析対象者は，2010年10月～2015年2月にもの忘れ外来を受診し，アルツハイマー型認知症と診断された1193名である（年齢，78.8 ± 6.3歳；女性，68.6%)。フレイルは，生活機能障害（15項目），併存疾患（11項目），老年症候群（12項目）に関する38項目（あり/なし）を介護者に聴取し，各項目で「あり」の場合，1点を振り分け合計点数を38項目で除したFrailty index (FI)を作成した。行動・心理症状はDementia Behavior Disturbance scale (DBD)，介護負担は日本語版Zarit Burden Interview (J-ZBI)で評価した。その他，患者背景，身体機能，認知機能，意欲，抑うつ，栄養状態，内服薬について調査した。統計解析は，目的変数にDBDまたはJ-ZBI，説明変数にFIまたはフレイルの重症度（プレフレイル，$0.08 \leq FI < 0.25$；フレイル，$FI > 0.25$)，調整変数に患者背景；身体機能，認知機能，意欲，抑うつ，栄養状態，多剤併用の有無を投入した重回帰分析を行った。また，構造方程式モデリングを用いて，フレイル，行動・心理症状，介護負担の三者の関連を検討した。

結果：平均のFIは，0.16 ± 0.10であり，プレフレイルが663名（55.6%)，フレイルが198名（16.6%）であった。多変量解析の結果，FIはDBD（$\beta = 0.30$, $p < 0.001$）及びJ-ZBI（$\beta = 0.13$, $p < 0.001$)と有意に関連していた。また，フレイルのカテゴリを投入した検討においても，プレフレイル及びフレイルはDBD（プレフレイル，$\beta = 0.16$, $p < 0.001$；フレイル，$\beta = 0.28$, $p < 0.001$）及びJ-ZBI(プレフレイル，$\beta = 0.09$, $p = 0.003$，フレイル，$\beta = 0.14$, $p < 0.001$)と有意に関連していた。構造方程式モデリングの結果，フレイルは介護負担に対する直接効果（$\beta = 0.14$, $p < 0.001$）だけではなく，行動・心理症状増大を介した間接効果（$\beta = 0.13$, $p < 0.001$)も有意であった。

考察：フレイルは行動・心理症状及び介護負担と関連しており、アルツハイマー病の行動・心理症状及び介護負担の軽減のために，フレイルの評価及び対策の重要性が示唆された。

指導教員氏名：小野　玲

（別紙１）

論文審査の結果の要旨

氏　名	杉本　大貴		
論文題目	Physical frailty correlates with behavioral and psychological symptoms of dementia and caregiver burden in Alzheimer's disease. (アルツハイマー型認知症において身体フレイルは行動心理症状及び介護負担と関連する) （外国語の場合は，その和訳を併記すること。）		
審査委員	区　分	職　名	氏　名
	主　査	准教授	小野　玲
	副　査	教授	安田　尚史
	副　査	教授	石川　朗
	副　査		印

要　旨

アルツハイマー型認知症（AD）患者は認知機能の低下のみならず、行動心理症状（BPSD）なども伴い介護負担が増大する。近年、AD患者の身体フレイルに注目が集まっており、身体フレイルがAD患者に与えるインパクトを明らかにする必要がある。本研究の目的は、AD患者における身体的フレイルとBPSDおよび介護者負担との関連を明らかにすることである。

本研究は横断研究であり、対象者はもの忘れ外来に通院している患者1193名（平均年齢78.8±6.3歳、女性68.6%）であった。結果は、対象者の全般的認知機能（MMSE）は18.9点であり、身体プレフレイルが663名（55.6%）で、身体フレイルが198名（16.6%）であった。重回帰分分析と構造方程式モデルから身体フレイルは、介護負担に対して直接効果とBPSDを介した間接効果を有していた。本研究は1施設での結果であり一般化には課題が残るものの、確定診断のついたAD患者において、身体フレイルが直接・間接的にBPSD、介護負担と関連していることを明らかにした初めての研究である。AD患者において身体フレイルへの対策の重要性を提唱しており学術的価値が高い。

以上から、杉本大貴氏の論文は博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。

掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年を記入してください。
Physical Frailty Correlates With Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia and Caregiver Burden in Alzheimer's Disease. Sugimoto T, Ono R, Kimura A, Saji N, Niida S, Toba K, Sakurai T. J Clin Psychiatry, 13;79(6), 2019.